

目指す学校像	○明るく、活気のある学校 ○美しい環境で、仲よく学べる学校 ○保護者・地域に信頼される学校
--------	---

重点目標	1 さいたま市教育行政に係る子どもの学び方と教職員の教え方の改革を図る。 2 安全・安心な学校生活に向けた取組を実施する。 3 開かれた学校づくりと家庭及び地域との協働体制を推進する。 4 教職員の協力体制の確立と指導力の向上を図る。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価		年度評価		学校運営協議会による評価				
年度目標		年度評価		実施日 令和7年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○昨年度の市学習状況調査の結果は、国語・算数共に市平均の水準より、やや下回る傾向が見られた。また、新体力テストの結果からは、子どもの行動体力における各能力に偏りが見られ、学力と同様の水準傾向が見られた。 ○子どもの学力向上に係る学校評価アンケート項目(授業は分かりやすい、先生は教え方を色々工夫している)の、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均値は、それぞれ96.7%、97.7%であった。 (課題) ○学力面では、より確実な定着を図る必要がある。体力面では、運動好きの子どもをさらに増やす必要がある。 ○上記アンケートの「授業が分かりやすい」のA評価が、一昨年度より-5%であった。	・市の教育施策に係る授業の推進 ・直接体験を通して、実感を伴うことができる学習活動の実践	①全教職員が学びの指標「授業者用チェックリスト」を念頭に置きながら、「学びのポイント『じ・し・ゃ・く』」の実践を、年間を通じて実践する。 ②ICTや習熟度別学習を取り入れた「個別最適化学びと協働的な学び」の視点を踏まえた授業を実践する。	①学校評価アンケート項目(授業は分かりやすい、先生は教え方を色々工夫している)が、子どもの肯定的な評価における過去三年間の平均値を、上回ることができたか。 ②教職員及び保護者の学校評価アンケートの該当6及び2項目のA評価が、過去三年間の平均値45.2%及び47.8%以上達成することができたか。	①評価指標の結果は、「授業は分かりやすい」が96.0%で、平均値96.7%との差が-0.7(A評価は74.0%で、同79.3%との差が-5.3)、「先生は教え方を色々工夫している」が97.7%で、同97.7%との差が-0.7(A評価は80.0%で、同差が-2.3)であった。 ②評価指標の結果は、教職員が44.2%で、差が-1.0、保護者が43.0%で、同-4.8であった。	A	①子どもによる「学習者の視点」から授業を評価する「学びの指標」における、1・2学期の数値の比較では、「主体的な学び」が+0.11、「探究的な学び」が+0.08、「ICTの効果的な活用」が+0.18、「基礎的な授業スキル」が+0.02と全て数値が向上していることがうかがえる。 ②来年度の学校課題研究が「安全教育」が主軸であったが、次年度からは子どもの実態に即した新たな学びの研究と修養に、全職員で実施していく予定である。	・今の学校教育は昔と違って、教育の在り方が大きく、1・2学期の数値の比較では、「主体的な学び」が+0.11、「探究的な学び」が+0.08、「ICTの効果的な活用」が+0.18、「基礎的な授業スキル」が+0.02と全て数値が向上していることがうかがえる。また、異学年交流や本校らしい教育が充実していること自体、驚くべき成果といえるのではないか。また、異学年交流や本校らしい教育が充実していること自体、驚くべき成果といえるのではないか。また、異学年交流や本校らしい教育が充実していること自体、驚くべき成果といえるのではないか。 ・関係中学校が、ICTの研究を推進している。特に学習におけるタブレットの利活用に重点を置いているため、小学校でもさらに研修を進めていけると、互いの学習指導法の向上につながるというし、小・中学校間での学力向上が期待できるのではないか。 ・園でも時代の要請で、保護者とのつながりは、携帯電話のメール機能を活用した「文字によるコミュニケーション」になっている。そのよきがある一方で、「保護者と話をすることがとても減ったことも実感する。ICTの裏の顔を考えて、小学生がタブレットで思いを伝え合うのは、トラブルに発展しないか心配な面もある。 ・教育活動の充実や先生と子どもとの関係構築に向けた取組のお陰で、大きな問題もなく、学校運営が行われているように感じる。まさしく、先生方の努力とチームワークのよきによるものである。また、先生と子どもの関係がよくなればなるほど、学校も少しずつよくなっていくように感じられ、先生方の頑張りに感謝させられる。今後も地域として、学校に協力させていただきたい。
2	(現状) ○過去2年間の市学習状況調査における「学校に行くのが楽しい」の項目に、肯定的に回答した子どもの割合は、市平均の水準より上回る傾向が見られた。 ○学校の「安心」に係る学校評価アンケート項目(子どもは他の児童と仲よく過ごしている、教職員は子どもの異変に素早く気付くよう努めている、教職員は子どもを褒め・毅然とした指導をしている)の、保護者の肯定的な評価における過去三年間の平均は、それぞれ93.3%、82.0%、92.7%となっている。 (課題) ○子どもの学校評価アンケート項目(学校は楽しい、思いやりの心を大切にしている、仲のよい友達がいる)の肯定的な評価が、過去三年間水準で推移しており、数値の向上が見られない。	・子ども同士のかかわりを大切に活動と、校内で安全に楽しく生活することができる取組の実践 ・自尊意識を高める取組の実践	①子ども自らが、人とかかわることのよさ・楽しさが味わえるよう、同学年・異学年合同による学習や活動、学校行事を、計画どおりに実践する。 ②子どもたちの基本的な生活習慣や集団生活におけるルール・マナーが定着できるように、月別生活目標の取組を中心に指導する。	①子どもの学校評価アンケート項目(児童会活動は楽しい、仲のよい友達がいる)の、過去三年間のA評価の平均値(69.0%、93.0%)を、上回ることができたか。 ②上記①と同様の評価を、子どもの学校評価アンケート項目(規則正しい生活ができていく)が55.7%、係や当番の仕事を進んで行う)が59.3%で行う。	①評価指標の結果は、「児童会活動は楽しい」が65.0%で、平均値との差が-4.0、「仲のよい友達がいる」が89.0%で、同-4.0であった。 ②評価指標の結果は、「規則正しい生活ができていく」が49.0%で、平均値との差が-6.7、「係や当番の仕事を進んで行う」が62.0%で、平均値との差が+2.7であった。	A	①月1回の異学年活動、低学年間での交流学習等、本校は異学年交流をよく行っている。今年度は子どもの数値として結果が出ていないが、引き続き、子ども同士のかかわりを大切に学習や活動を、今後も継続していく。 ②月1回の生活朝会を通して、月別生活目標の取組を伝えるとともに、子ども自身に評価する場面を適宜与えていながら、子ども自らが「気付き・考え・行動する」ことができるようにしていく。	
3	(現状) ○今年度実施する50周年行事に向けて、昨年度実行委員会が発足し、式典も含めた記念行事の実施準備が進行している。 ○学校運営協議会において、本校の「育てたい子どもの姿」についての熟議は図られている。 ○SNSがしっかりと組織されており、円滑に機能している。 (課題) ○50周年式典も含めた周年行事と学校教育活動との接続について、検討を進めている。 ○学校HPも含めた、積極的な情報発信が停滞している。	・保護者・地域との連携事業の実行と完了 ・本校の教育活動における、積極的な情報発信	①周年行事実行委員会が機能できるよう、学校の取組として協働できる企画やスケジュールを調整し、参画する。 ②「育てたい子どもの姿」の実現に向けて、家庭・地域で取り組む手立てを検討し、実行できるように協力する。	①式典も含めた周年行事が、計画どおりに実行することができたか。 ②家庭・地域で取り組む手立てを一つ以上設定し、実践に移すことが検討され、取り組みに至っているか。	①評価指標の結果は、本校の平均が91.5%で、同市平均との差が+2.1であった。また、昨年度の本校平均との差は、+1.0であった。 ②年間指導計画に即した授業実践だけでなく、学校課題研究を生かして「生命の安全教育」を各学年で実践することができた。また、実践内容の工夫・改善を図ることができたか。	A	①心と生活のアンケート結果から教育相談の対象になった子どもたちを中心に、個々のもつ課題をよく理解しながら、その課題に寄り添ったかかわりを行っていく。 ②各学年や学年、委員会・クラブ活動等、子ども自らが行う活動は、本人のめあてとその出来栄について評価することを繰り返し、教師と子ども、子ども同士が称賛し合い、認め合える人間関係を構築していく。	
4	(現状) ○授業や学校生活における事故防止についての事例研修会並びに教職員の服務に係る研修会を、それぞれ年1回以上実施し、教職員の危機管理意識の継続に努めている。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができていく。 (課題) ○さいたま市教育委員会から委嘱を受けた学校安全教育に係る研究発表大会を本年度控えており、授業研究を含めた校内安全教育の充実を、全職員で実施している。	・教育活動における事故防止の徹底と、自助・共助意識を育む安全教育の推進 ・教職員の授業力の向上	①事故防止マニュアルに基づいた学習環境の安全確認と教職員の複数体制による学習指導を実施し、事故防止の徹底に努める。 ②市教委等から指導者を招聘し、本校の研究課題「自他の生命を尊重し、安全に行動できる児童の育成」に、研究組織を生かして全職員で実践する。	①保護者の学校評価アンケート項目(学校は安全・安心な教育環境を作り、事故防止に努めている)の、過去三年間の肯定的な評価の平均値(91.7%)を、上回ることができたか。 ②学校課題研究に係る各種アンケートの結果から、子どもが目指す子ども像に迫ることができると示すことができたか。	①評価指標の結果は、「学校は安全・安心な教育環境を作り、事故防止に努めている」が、93.0%で、平均値との差が+1.3であった。 ②評価指標の結果は、児童アンケート全23項目の調査において、A評価が64.0%で、過去二年間の平均値60.5%よりも+3.5%であった。	A	①次年度も、授業や学校生活における事故防止についての事例研修会並びに教職員の服務に係る研修会を、回数だけでなく内容の充実も図りながら実施し、教職員の高い危機管理意識のある職務遂行の継続を図っていく。 ②次年度の学校課題研究テーマを、本校の子どもの実態に即しながら、市の教育施策と関連付けて設定し、更なる教育活動の改善と充実を図っていく。	
				①②「学びの指標」に係る評価結果が、市平均よりも同水準以上となったか。また、授業実践が、師範授業を含めて、年間10回以上実践することができたか。	①②評価指標の結果は、「主体的な学び」は市平均より+0.14、「探究的な学び」は同+0.12、「ICTの効果的な活用」は同+0.05、「基礎的な授業スキル」は、同+0.10であった。また、教職員間が互いに学び合い、教え合うことを目的とした公開授業は、計39回実践することができた。	A	①②「学びの指標」の結果や本校職員の自己評価から、次年度は、さらに教育DXが推進できるよう、タブレットPCを活用した授業実践を推進していく。	

